

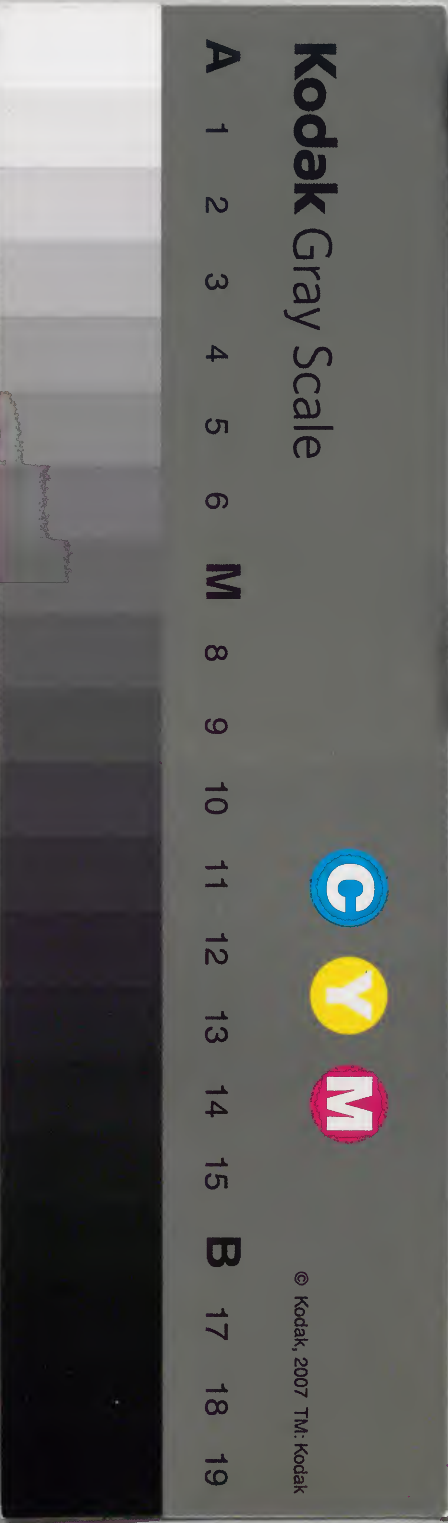
書外書

農家實行

168

庫	文	閣	內
一六	一六		和
三	八		
內閣文庫			
番號	和	16825	
冊數	2 (1)		
函號	183	168	

183-168



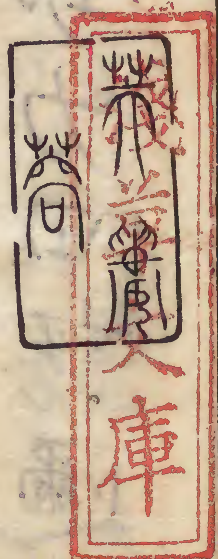
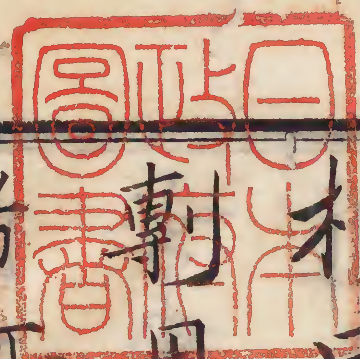
農家貫行叙

相中令裴君著農家貫行。

朝用俚語。以便民。貫行也。

者何。取諸漢人之言也。蓋其

布衣友。馬老之所需云。馬



農家貫行

老為人慷慨。勸人為善。書
成。亦焉。則曰。善。善。我。其。君。君。
言農事也。仁民之心。能察
淵魚。師古不師古。治今不
治今。本孝悌。勤力田。語爾

而旨遐矣。其周室讀灋之
遺邪。果用此道。則於治民
乎何有。吁。四人之業。農為
大矣。一夫不耕。則飢至。一婦
不蠶。則寒至。不耕不蠶。天

下傲焉。則天下之寒飢至焉。是故治國之本。在勸農也。稼穡。天職也。耳。以奉縣官。以養君子。以事父母。以育子弟。迺以暇日。博孝

悌敦厚之教。則放僻邪侈之俗。以變。易直子諒之心。以生。孝恤睦。媿興於下也。爭訟之路塞矣。而後民樂其生。重犯澹。家足人給。能得全首領。

共天職。則農家之事畢矣。
兼君好學乎。其焉取焉。方
今
聖上銳志理術。以百姓為心。民
望如草。皇澤如春。當念

時。揭之木鐸。我邑猶水之就
下也。莫之能禦也。迺懷而去。
遂因兼君。詢叙鳳鄉。
不闕農事。然是老之言。遂
誌其語。是為叙馬老名史

とはよくしり。種まきの時を破換あまともめをく人の物
 のつよよは何れもめても氏子うてんせの文盲を
 と別當の官はれそら一と事奇妙あるものといふ
 すむるより。官もあく終もさしひやふ再興成務する
 して建立はれい。修務は天子ね軍家より代に運営を
 せ。いふやうと孫構に修務する屋敷も本といふにめ
 むい官葺代は別院宣よりくたり。まうれ孫構
 の官井も居破換あま。村中より修務をく事あり。
 事候も面漏され。且方此世信よせてたふ計。これ宗門の
 不飛ふと公用向のより。官も寺もてをれ。刺るると、折

よろしく改修とて告る。ば外厨裏客殿のお好什物
 ちと出来は事。位はこれに任す。さて其抱ふは湯
 の先祖と葬。ま材のまつを概りあるに。最まら且
 方は。あはれとあはれもて佛もせ。私の意趣を
 先祖の墓。あまを茶着とた。あまら且中といひあせ
 離壇の出入を起。村中強動よといひ。近村の扱よと
 悔且。出入落着のう。且方。いふふ及村中。此困窮と
 成。の在。くおわく。事。出家を一所。此の男
 一。中。此。職。ふ。無。せ。され。他。山。に。納。り。福。地。を。食
 着。あ。と。事。わ。れ。と。と。字。お。積。の。め。や。う。た。且。方。と



農家置行也

此は直に吾事にあつて一事脱するはありしを汝れ

あはれきと害換し。正徳の徳を以て徳とゆへ

至從親子更母兄友朋友は又偏の乃れ。汝若しりの控

あはれと知らる事なれ。動もされし者あり。此道

心しわされし治あり。汝愚痴之智のり。汝は後示し

一人つと吾事に起さ。研作のり。心もく。心もく。心もく

一羽の百粒お積り。汝若しりの大なる仁にて。村里に長り。の

かなり。汝若しりの。郡中北。汝若しりの。汝若しりの。汝若しりの

中名。一

又つ人の乃り。汝若しりの。汝若しりの。汝若しりの。汝若しりの

汝若しりの。汝若しりの。汝若しりの。汝若しりの。汝若しりの

又若しりの。汝若しりの。汝若しりの。汝若しりの。汝若しりの

又若しりの。汝若しりの。汝若しりの。汝若しりの。汝若しりの

又若しりの。汝若しりの。汝若しりの。汝若しりの。汝若しりの

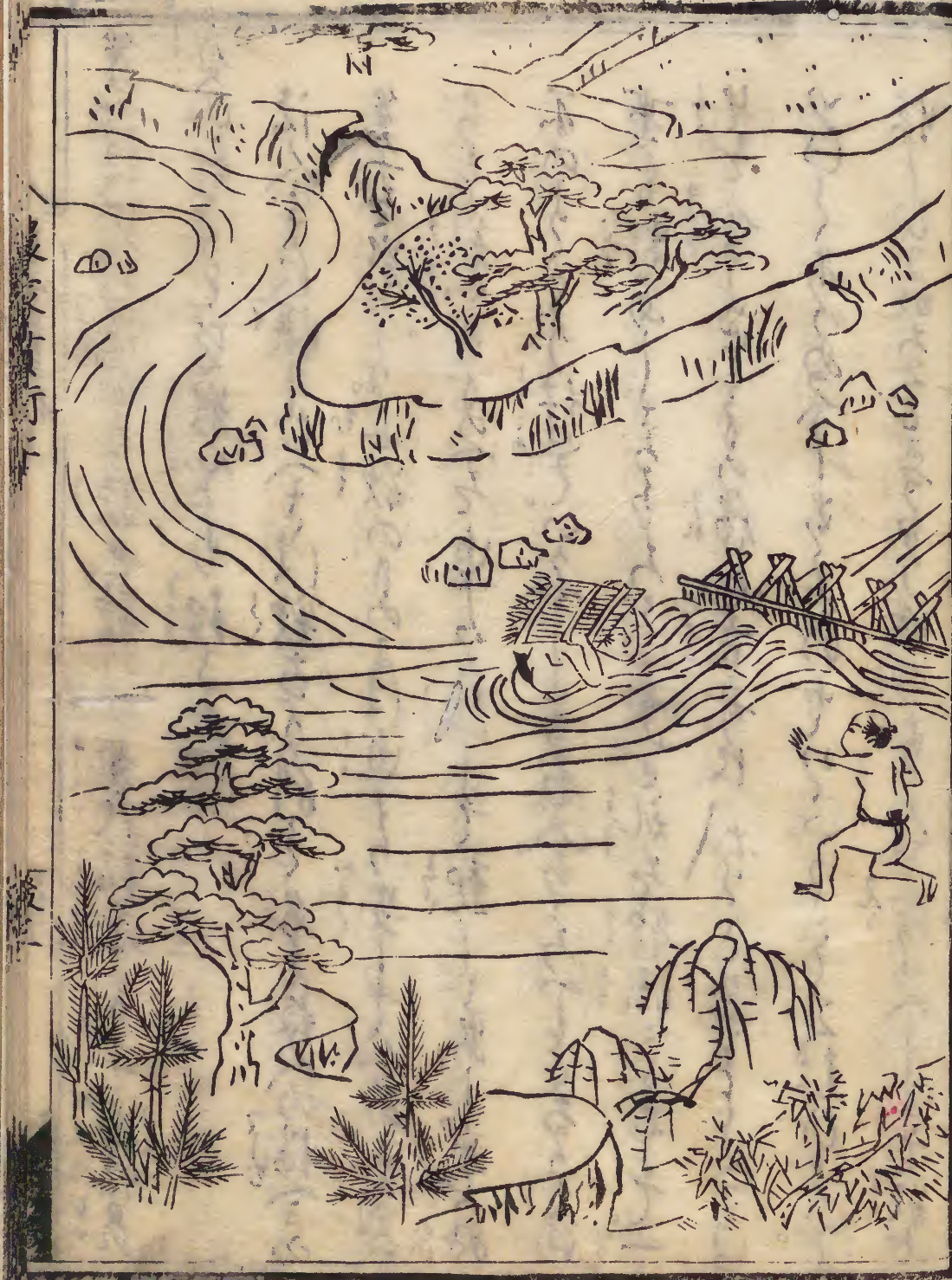
又若しりの。汝若しりの。汝若しりの。汝若しりの。汝若しりの

又若しりの。汝若しりの。汝若しりの。汝若しりの。汝若しりの

又若しりの。汝若しりの。汝若しりの。汝若しりの。汝若しりの

又若しりの。汝若しりの。汝若しりの。汝若しりの。汝若しりの

又若しりの。汝若しりの。汝若しりの。汝若しりの。汝若しりの



舟家貞律

第一村及人の情面を欲也。欲は法悪代根本なりて。依怙具
負の形もと皆能心より起る也。

法人も人に情心つひは欲あり。利く多き後人の情心つひの
第一を欲たり。之欲のものは近より安してんあざあ
らも。能心よきありものを近より強して親しきあり。是れ好
不のよくならはせむ。いふも。有みありやとあるは何
事も親愛し。さうありと事と此を欲ほふと志して一
けと令まむ。此の情也。古舟にたのさるをそと人々は
つひくありありとありのせり。いふも。いふも。いふも。いふも。
情心つひはありありとありのせり。いふも。いふも。いふも。いふも。

いふも。情心つひあり。田作の虫本よほをえん。と。さ。や。風。ま。の。ま。
あ。と。は。二。三。儀。も。多。く。取。り。と。稱。ふ。を。よ。く。と。い。ふ。も。れ。
情心つひありのなり。檢見着法の時力を入く。拙めら。二升の
粟八合よをきと。あ。の。を。た。れ。と。思。ふ。是。れ。今。受。る。り。食。
を。欲。と。り。あ。り。二。三。儀。よ。く。と。稱。ふ。を。よ。く。と。い。ふ。も。れ。
か。あ。り。と。一。村。を。此。先。表。ち。り。か。ん。と。い。ふ。も。れ。物。と。食。る。り。を。
あ。の。た。何。事。も。唯。好。ま。り。と。物。は。違。ひ。度。に。よ。り。と。あ。
事。あ。り。と。い。ふ。も。れ。會。仲。を。強。く。た。と。一。國。と。
此。と。悪。人。と。敵。也。是。よ。り。い。ふ。も。れ。食。根。情。を。お。か。し。と。
お。ま。し。と。嗜。人。と。

村中此人なきに縁き用なきに度は来しお見也
の者物未送ゆのちとくかたし次仲制さうもきも付
乃挨拶挨拶さうさう事あり

前さうさうあまの近く来はゆえんさうに又挨拶
さうさうゆりさうさうさうさうさうさうさうさうさう
むういさうさうの挨拶挨拶さうさう事ありさうさうとゆ
断せもさうに用心をかまそ人とおさうさうさうさうさう
已を敬うさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
さうさう見廻き物さうさうさうさうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
人さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

都さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
挨拶さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
遊さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
村方此ゆさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
石ゆはありせさ。是さうさうさうさうさうさうさうさうさう
於よせよさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
屋さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
苗懐さうさう軍巡のさうさうさうさうさうさうさうさうさう

とせよんくくく海慈せと先我らあるとみ増付直とて
細民百姓代もかつるさよめをたぬよりとさせ若た用へ
たるるは自ら此不簡をいふとよりいさ方とらゆ
奉肝要ちり。已いりれう若くは定変の所を悔も

う

貴は重一貴と物一とらう。途中ちとて細下此百姓
を礼もくしたる。已り政の宜しうくさると思ひ。彼と
不忠とのまは願ふ。此役人言ちつたう及回復又百姓
へも流義と重一。我修成振廻とく。此若く仲り間
兼舎此節も月書或は年若れ人とは是れ之進め。已

富貴たかたそ。色代ちくくくと社をることあふくは

あひまらる事は重く。此等事ハ物くせよとてさるあ。
此れれめたれをすまき事なるに思くをれせと。扱
我ちりゆりれ平せ本もくんめかおたんとせんも前と
うつ。此用向うてある人たつよま及。此れれ百姓と
をれせぬやうと。用心は。む名を付けるる害合の時。
年よあるものとは上なるをい。名をとるれ。大村
と小村も富ちりも貧ちりも一同たれも。○老の人をよ
へ進つとは唐と日本も同。此也孟子所謂朝廷莫如
爵卿堂莫如齒とて殿上よ下を爵位を貴い。や弁ふん

年齢ねんれい高たかくく故ゆゑに老人らうじんとよに進すすむなり。もろこいれと老らう又また更さらふも則すなはちち若わかきを座ざ金かねとし。村むらにに長ながらるののといふも。又また知し得ともにあまさく人ひとのの老らうのの字じをたまにに賜たまふも。年ねん老らうれに役やくあらむも。事ことはは天下てんかににあまさくううあら也なり。めめのの老らうれに人ひとのの長ながえを老らうるのをは敬うやむも。ままさらには也なり。

第一物だいいつ未まだだ不ふ老らう人にんのの若わかきを奉ほうぐも。池いをはくも。後のちはは時ときのの勢せいひを奉ほうぐも。人ひとを慢慢まん已やます。不ふ善ぜんれにののをも。大たい善ぜんとしればもいいく。小せう悪あくとしれば人ひとを奉奉ほうぐも。和わ厚こう衣い與よもも。村むら中ちゆう博はく博はくののと威一いつ言ごんのの見みも和和わぬも。ハハ我われ志しはは長ながくも。何なにいふまに執しやくり。押押おし詰じやくはは石いし姓せいとし出で入い起きり。

村中むらちゆう其そのとちのの奴やつ

物もの未まだだ不ふ老らう人にんのの若わかきを奉ほうぐも。池いをはくも。後のちはは時ときのの勢せいひを奉ほうぐも。人ひとを慢慢まん已やます。不ふ善ぜんれにののをも。大たい善ぜんとしればもいいく。小せう悪あくとしれば人ひとを奉奉ほうぐも。和わ厚こう衣い與よもも。村むら中ちゆう博はく博はくののと威一いつ言ごんのの見みも和和わぬも。ハハ我われ志しはは長ながくも。何なにいふまに執しやくり。押押おし詰じやくはは石いし姓せいとし出で入い起きり。

是天月神のつれなき也。積善の家は竹をある。海
そのいよき世に善根のあつらふ。何をいふ子孫お積の
便とさふん

何日とあるも成てし。中世とさふぬを百姓あり。まに
悪くは百姓結果と認められん代に竹を成てし。謀計
をいふよび持巧言とさふくわと祇う。お巨町の
田畑山林を森。已一代を草すくくお積とさふんと。世に
子孫あり。おれ懐物お右の田畑意者さふくひ。お財は
却てつれくにまて一家一門を認められん。又月神
物を成也。積善の家は竹をあるとて。善くお積は重

たつあつたは必しありさる事多し。善く人の難を救え
よそ者一人の救おは其も救人のあるお方ありあり
まらう。其救ひ我もあつた福をいふと悪く我難を
いふもわたり。お救はは人におさつた付万幸我の計は
よめくも指ひ我もあつたふらふいふをいふと世にお入
智とさふた。お善事に通じるおあつたおさつたなり
都く若くは人のいふ言もいふおさつた。お善くは必し
乃百姓も一同のいふ。お善くは必し百姓の
よはばさつた。お善くは必し百姓の
也。百姓の善くは必し百姓の

東大寺行

慮に懐く

人々多きは心氣の弱也。富貴貧賤壽夭窮通
 皆天命也。天命ありて富貴にたりて貧窮に
 邦ありて貧窮にたりて富貴にたりて貧窮に
 物よりして心外にたりて富貴にたりて貧窮に
 あり。富貴のみに解きつても、四壁に松竹梅を
 のちにりて心外にたりて富貴にたりて貧窮に
 百代に。昔の昔も、後にも来りて富貴にたりて
 あり。お古の風を、お新の風を、お古の風を、
 持勝り思ひて。山は山なり、川は川なり、
 女子のありありと、百仕の男を、髪に結きて、
 万々山方は、斯も、遠く、山方は、一面の面、
 何を仕附きても、登りて、お新の風を、
 五穀に。百代の福有にありて、山方は、
 何うと。雲を、お新の風を、お新の風を、
 ありて、お新の風を、お新の風を、
 身代お新の風を、お新の風を、
 されと。お新の風を、お新の風を、
 貯ありて、お新の風を、お新の風を、
 只、お新の風を、お新の風を、

女子のありありと、百仕の男を、髪に結きて、
 万々山方は、斯も、遠く、山方は、一面の面、
 何を仕附きても、登りて、お新の風を、
 五穀に。百代の福有にありて、山方は、
 何うと。雲を、お新の風を、お新の風を、
 ありて、お新の風を、お新の風を、
 身代お新の風を、お新の風を、
 されと。お新の風を、お新の風を、
 貯ありて、お新の風を、お新の風を、
 只、お新の風を、お新の風を、

せむしーくも_{ひん}あるは_{おん}自然たりと_{おん}信_る。むす_{はん}娘_らは_けさ
 事_あは_れた_れ作_らる_心も_誰ま_り別_く名_もに_はあ
 うま_さう_ちら_うは_お國_にも_能か_のお_もり_を思_はた_らは
 村_あは_れるとは_{えん}く_らむ_く人_ら。百姓_の志_を信_て食
 求_め。何_ゆの_ら限_ら子_成と_も。後_あも_れて_大なる_私を
 取_り。不_便なる_子給_人和_をと_る永_く其_を結_らる_ら何_ら
 産_らら_まり。若_うう_ら川_や此_地も_あら_いて_いふ
 せん_らう_まら_んと_もあ_らん_後物_と前_まら_んと_も欲_の心_也
 若_う百姓_{との}と_事は_多くは_百姓_{の内}若_うと_も其_の
 ま_りあ_らう_く収_得と_棄ら_る。又_は此_の志_を思_はる_ら

大_勢を_かく_ひ。出_入を_急ら_り
 百姓_{の内}形_を知_れり_のあ_きも_物は_易し_い。あ_らひ_を其_の
 な_らず_も。彼_所向_の用_事と_も。其_村方_{の内}も_小事_也
 利_くゆ_う人_も用_のと_も。其_村方_の形_を知_れり_も
 若_う民_心を_知らす_る。其_の勢_もは_大なる_ら何_ら。其_は其_の平
 若_う民_心を_知らす_る。其_の勢_もは_大なる_ら何_ら。其_は其_の平
 若_う民_心を_知らす_る。其_の勢_もは_大なる_ら何_ら。其_は其_の平
 若_う民_心を_知らす_る。其_の勢_もは_大なる_ら何_ら。其_は其_の平
 若_う民_心を_知らす_る。其_の勢_もは_大なる_ら何_ら。其_は其_の平
 若_う民_心を_知らす_る。其_の勢_もは_大なる_ら何_ら。其_は其_の平

農家言行上

百三十一

二ありりし軍令に及んぬ人知と定りたる成り
 五人組帳といふしよわゆる事。後にお配代の方より
 事は一ヶ条つと増改事に脱する事あり。去
 上の儀状をなすのぬき表紙の書籍の教
 又と定りしぬ地獄極楽の事あり。儀を合意せしめ
 五人組帳の指をさす。帳面改の所より一篇さすや
 村中へ渡せしる事あり。中へいふ成りし。改事
 の根本され。村役人お時におり。百姓を本年に
 之度つかさす儀状をなす事あり。通り村方より
 百姓安楽ありと知願

百姓安楽ありと知願

